

FIELD STORY



FIELD STORYでは、開発コンサルタント、NGO/NPO、大学関係者など民間の方々に向け、JICA事業の最新動向、トピックなどをフラッシュしてお伝えしていきます。読者からのご意見や人物紹介なども歓迎します！

November 2016 11

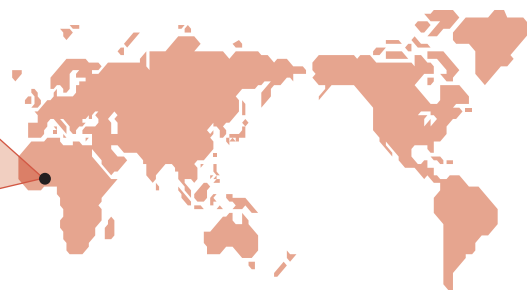
Interview

ブルキナファソ事務所

Burkina Faso Office



小林 丈通 所長



農産品の多様化促し 経済成長を加速

ブルキナファソは、西アフリカに位置する人口1,759万人の内陸国です。同国は2014年以降、民衆蜂起やクーデター未遂が発生するなど、政治的不安定化が懸念されていますが、15年12月に大統領選挙が民主的に実施され、安定した政治の実現に向けて動き出しつつあります。また、同国は金の産出量の増加や、肥料などに使われるリン鉱石、綿の生産を背景に2014年に4%の経済成長を果たしましたが、内陸国という地理的なデメリットもあって製造業が根付かず、アフリカ地域の中でも最貧国の一つと

して位置付けられています。

こうした中、JICAはブルキナファソに対して①「成長の加速化」のけん引役となるべき農業振興、②教育支援を通じた人的資本の強化、そして③広域の輸送インフラ整備などを通じた域内経済統合の促進、の3本柱を重点的に支援しています。

農業分野の協力としては、技術協力「市場志向型農産品振興マスタープラ

ン策定プロジェクト」(13~15年)を実施しました。ブルキナファソでは労働人口の85%が農業に従事していますが、農産品の種類が限られるなどの課題を抱えています。この協力では農産品の多様化を目的に、大豆やマンゴー、いちごなど市場のニーズが高い農作物の加工・販売に関わる計画の策定を支援したほか、豆腐の加工工場と販売所の運営を支援する実証事業も行いました。今後は大豆のバリューチェーンを強化するための協力も実施していきます。

また、同国は日本にとって、ゴマ油に使用される搾油用ゴマの重要な輸入元でもあります。「ゴマ生産支援プロジェクト」(14~19年)では、この国で生産されるゴマの品質向上と増産に向けた支援を行っています。ゴマの生産に使用される農薬に関する実態調査なども実施しており、その結果を踏まえて、適切な農薬の使用に向けた指導も行う予定です。

このほか、「全国低湿地開発計画策定プロジェクト」(16~18年)も予定しています。地理情報システム(GIS)を導入して全国の広大な低湿地の実態を把握した上で、ため池の整備などを行いつつ農耕地としての活用を促進していきます。



ブルキナファソ産の大豆。貴重なタンパク源として注目される



大豆の加工食品として豆腐の串焼き(1本約10円)が売られている

住民参加で教育改善を支援 子どもの栄養改善も視野に

教育分野では、「学校運営委員会支援プロジェクト」を実施しています。ブルキナファソでは、近年、政府の取り組みによって就学率が大幅に改善しつつあるものの、教員不足や教室の過密化などの課題を抱えています。この協力では、父母や地域住民が参加する「学校運営委員会（COGES）」の普及を進めています。COGESでは、住民から集めた分担金を基に机やいすの修繕といった教育環境の整備のほか、補習授業や模試の実施などにも取り組み、他のアフリカ諸国でも進められている「みんなの学校プロジェクト」の一環として、住民参加型の教育改善を支援しています。現在はフェーズ2

（14～17年）を実施中で、全国13州、約1万2,000校に設置したCOGESの機能強化に取り組んでいます。

また、教員の能力不足への対策として「公立教員養成校実践的教育機能強化プロジェクト」（16～18年）を実施中です。教員を目指す学生が、教員養成校修了時までに適切な指導方法・技術を身に付けることができるように、養成校や教育実習の指導内容の改善を進めています。

さらに「域内経済統合の促進」に向けた取り組みとして「西アフリカ成長リング回廊整備戦略的マスタープラン策定プロジェクト」を実施しています。この協力では、ブルキナファソをはじめとする西アフリカ地域の経済成長をさらに加速させるため、域内4カ国にまたがる3つの国際回廊を整備すると

ともに、同地域の産業開発も視野に入れ総合的な地域開発戦略を策定します。

JICAは今後、これらの協力を進めながら、3つの分野を横断する総合的な協力を目指します。例えば、農業支援として大豆バリューチェーンの強化と大豆加工食品の生産技術・質の向上を進めつつ、COGESと連携して学校給食への導入を含めた普及を図ることで、大豆の国内消費の増加と子どもたちの栄養改善を同時に実現することができると見られます。また、ゆくゆくは成長リングを通じて大豆食品を国内外に効率的に輸送することも考えられます。16年8月に第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）で宣言された「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ（IFNA）」を踏まえて、より効果的な取り組みを実現したいと考えています。

Professional Partner

域内市場の産業開発を促し 内陸国の発展に寄与



(株)オリエンタル
コンサルティンググローバル
技師長(開発計画担当)

佐々木 英之さん
SASAKI Hideyuki

一人当たりの国内総生産（GDP）が613ドル、一国の豊かさを示す人間開発指数（HDI）が世界第183位にとどまるブルキナファソは、アフリカ大陸の中でもひときわ開発が遅れた国として知られています。内陸国である同国は近隣国の港から1,200km以上も離れているため物品の輸送コストが高く、開発のボトルネックにもなっています。

「西アフリカ成長リング回廊整備戦略的マスタープラン策定プロジェクト」は、同国を含む西アフリカ4カ国

（ブルキナファソ、トーゴ、ガーナ、コートジボワール）における輸送回廊の整備と産業開発を目指す協力です。域内の連結性の向上に加え、大きな市場を持つ隣国ナイジェリアへのアクセス改善をも視野に入れて調査しています。

具体的には、これら4カ国では海外輸出用の鉱物資源を長距離輸送するための回廊を発達させることが難しいことから、「域内市場向けの産業開発」と「域内貿易の促進」に向けた計画を策定しています。例えば、ブルキナファソは、近隣国に対して農産物を輸出していますが、今後は回廊整備を通じて農産物の域内輸出をより一層強化し、将来的には近隣国の中所得者層に向けた農産加工品の製造・輸出を目指します。

そのため、ブルキナファソから港に至るまでに通過する沿岸国内陸部の開

発も重要です。沿岸部の開発から取り残されたこれらの地域に対して産業を呼び込み、輸送インフラの持続的な整備を促すことで、ブルキナファソの成長にもつなげます。また、西アフリカ地域の関税同盟を実効化させ、域内貿易の障壁を取り除くことも急務です。

私自身は、大学院で土木工学科の修士課程を終えた後、開発コンサルティング企業に勤めて既に30年以上が経ちます。その間、農村開発などにも取り組みましたが、最近では再び産業やインフラ開発の計画づくりに注力しています。今後はマスタープランの策定の支援に加え、その実行に向けた働き掛けにも力を入れていきます。

◆
独立行政法人 国際協力機構
〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25
二番町センタービル
<http://www.jica.go.jp>